

はじめに

私はこれまで9年間、自分の塾やカルチャーセンターで小学生から80代までの方々に英語を教えてきました。生徒さんたちに「単語を覚えるのは簡単だよ」と説明しても、多くの人が「嘘だ」と言ってなかなか信じてくれません。確かに英検1級レベルの語を覚えるのは容易ではありませんが、準1級レベルやTOEICレベルの英単語を覚えることは、皆さんが思うよりずっと簡単なのです。その「簡単だ」ということをどうやって伝えたらいいか、いろいろ考えました。その答の1つと考えるのがこの本です。

私自身も「学習者」として英単語を覚えることには何年も苦労してきました。暗記の作業はとにかく苦痛でした。ところが15年ほど前に英単語の語源を調べ始めたときに様子が一変しました。英単語と語源をEXCELに入れて整理していくうちに、なんだか単語の意味が「見える」ようになったのです。

それらをより明確にできるようにと図解化し始めたときに、さらに様子が変わりました。単語を覚えやすくなったのはもちろん、単語の意味を「感じられる」ようになってきたのです。「訳語」でとらえることによる「真の意味とのズレ」がどんどん解消されていきました。そうなるまでに時間はそれほどかかりませんでした。

その後も、「もっと簡単な方法はないか、面白い方法はないか」を模索して10年以上になりますが、その中で見つけてきた答えをこの本の中に詰め込みました。「こうすれば簡単だ」ということを次世代に伝える役割が体験者としての自分にあると思っています。

中心はやはり「語源」です。でも、語源を使うと「かえってややこしいのではないか」、「まわりくどい」「めんどくさそう」と思われがちで、私が共著した「英単語の語源図鑑」(かんき出版)にもなかなか手を付けられない人がた

くさんいるようです。そういう人たちのために、もうすこし「ゆるく」考えるようにしました。厳密には異なる語源の単語も、同じイメージならばいっしょに混ぜたり、アルファベットの「文字」のイメージを表現したり、音や漢字や日本語でイメージして語源につなげるなどの工夫をしました。知っている日本語や感覚と、英単語を関連付けようとしたのです。

それから、やさしい英単語も入れました。「語源」で考えることができるのは主に「ラテン語由来」の単語なのですが、それより古い古英語由来の単語はそうはいきません。中学で出てくるような基本単語の中には古英語由来の単語、つまり「語源」では説明しにくい語がたくさんあります。そういった語をなるべく入れられるように考えました。

それと、なんとなく「面白い」「楽しい」と思ってもらえるようにすることを考えました。一部の方々からは「くだらん」とお叱りを受けるかもしれませんが、なんとなく楽しい本にしたかったのです。私の塾に来る中高生や受験生の話を聞くと「きついだろうなあ」と思います。学校で指定された単語集の端から順に、一週間に20～50単語覚えることを強制されます。毎週テストですから、嫌になるのは当然です。でも実際は、英単語学習って面白いのです。

お使いの単語集の中の覚えたい単語をこの本の中で調べてみてください。単語の意味がイメージできて、単語がただの「アルファベットの集合体」ではないように見えてくるはずです。すでに知っている単語と同じ語根が入っているかもしれません。そうしたらそれらを関連付けて、なんだったらついでに他の関連単語も覚えてしまえばいいのです。

イラストをたっぷり入れました。イラストレーターに頼まず自分で描いているので、思っていることが正確に表現できるところが強みです。